

平成15年春季特別展

弥生創世記

検証・縄文から弥生へ

平成15年4月12日(土)～6月15日(日)

主催／大阪府立弥生文化博物館、文化庁、読売新聞大阪本社、読売テレビ

後援／(財)大阪21世紀協会

協賛／堺女子短期大学、(株)国際交流サービス



Dawn of the YAYOI Culture

◎考古学セミナー◎ 場所:1階ホール 時間:午後2時～4時(受付:午後1時～)*全回参加者には修了証と記念品を贈呈いたします。

第1回/4月20日(日) 講師:宮本一夫(九州大学教授)

「弥生時代はどのように始まったのか—中国大陸からの視点で—」

第2回/5月11日(日) 講師:泉 拓良(奈良大学教授)

「縄文人の弥生化!?!」

第3回/5月18日(日) 講師:西谷 正(九州大学名誉教授)

「弥生文化の形成と朝鮮半島」

第4回/6月 8日(日) 講師:細谷 英(早稲田大学比較考古学研究所研究員)


「木の実サイクルから稲作サイクルへ—植物利用からみる縄文・弥生社会と池上曾根遺跡—」

*本館学芸員による展示解説/毎週日曜日と祝休日(午前11時～/特別展示室)

◎春季特別展体験学習◎—石廬丁形のペンダントを作ろう—

5月24日(土)、5月31日(土) 午後1時～3時/定員:30名 参加費:300円(入館料別)

要申込:往復はがき「住所・氏名・連絡先電話番号・参加人数・希望日を記入」、博物館アクセサリ係へ(各10日前必着)

 大阪府立弥生文化博物館

●開館時間:午前10時から午後5時(入館は4時30分まで) ●休館日:毎週月曜日(但し5月5日(月)は開館、翌6日(火)は休館) ●入館料:個人—一般600円(480円)、65歳以上・高大生400円(320円)、小中学生・障害者手帳を持つ方は無料【()内は団体料金 20名以上】 ●所在地:〒594-0083 和泉市池上町443 ●TEL:0725-46-2162/FAX:0725-46-2165 <http://www.kanku-city.or.jp/yayoi/>
●交通:JR阪和線「信太山」駅下車徒歩7分、南海本線「松ノ浜」駅下車徒歩20分 駐車場:普通車80台、大型バス7台無料

どのようにして弥生時代は幕開けたのだろうか。

これまでの通説では、渡来人によって稲作文化が伝播し、人々の生活スタイルに変化が起こり、縄文時代とは違った形やセットの土器も作られた。それが弥生土器だという。しかしこうした見方に変化が起こり始めている。近年の発掘や自然科学の分析結果では、稲の栽培は縄文時代にも行われていたこと、一時に多数の渡来人が押し寄せたのではないことが明らかになりつつある。縄文から弥生への時代の狭間にどのような社会変化が起こったのか、改めて検証が必要になってきている。最近の発掘成果だけではなく、従来から知られている資料や遺跡についても視点を当て、混沌とした時期の具体像を解明したいと思います。

I 弥生土器の成立

弥生土器とは、どういう土器か。縄文土器と全く違うものなのか。弥生土器の成立は弥生時代の始まりの指標なのか。そして弥生土器の広がりは何を意味するのか。幅広い視点から弥生土器を捉えます。



日本列島最古級の青銅器鋳型
和歌山県御坊市・堅田遺跡



弥生最古の青銅器
福岡県津屋崎町・今川遺跡



朝鮮半島からもたらされた鏡／福岡県福岡市・吉武高木遺跡



中国東北部の稲作遺跡で製作された玉器と骨製品
中国遼寧省・文家屯遺跡



稲作が伝わった頃の木製農具／佐賀県唐津市・菜畑遺跡

II 水稲農耕の開始

水稲農耕はいつ始まったのか。水稲農耕と稲の栽培とは違うのか。水稲農耕の開始は弥生時代の始まりの指標なのか。そして水稲農耕はどのように広まったのか。多角的な視点から水稲農耕を考えます。

III 精神世界の変容

弥生時代の祭祀とは何か。縄文時代と完全に断絶するのか。精神世界の変容は弥生時代の始まりの指標なのか。そして弥生の精神世界は何を求めるのか。新たな視点から精神世界を探ります。



新たな墓制である支石墓に副葬された貝輪
佐賀県呼子町・大友遺跡



祭祀に使われた猪の下顎骨／佐賀県唐津市・菜畑遺跡

主な展示品

- 稲作が伝播した頃の菜畑遺跡や雀居遺跡などの木製や石製の農具と土器
 - 我が国最古級の今川遺跡の青銅器と曲り田遺跡の鉄器
 - 青銅器生産の開始を告げる堅田遺跡の鋳型
 - 近畿地方最古段階の若江北遺跡や田井中遺跡の弥生土器
 - 4000年前の中国東北部の稲作を示す文家屯遺跡の土器や玉器
 - 弥生時代とほぼ同じ頃の中国大陸や朝鮮半島の青銅器
- …………… 出品総数約750点(重要文化財14点を含む) ……………